

## 新小牧市民病院建設設計業務委託プロポーザル実施結果

### < 審査結果 >

最優秀者	株式会社 梓設計 名古屋事務所 代表者 中村浩一 総括責任者 村本一彦
次点者	株式会社 久米設計 名古屋支社 代表者 鈴木一光 総括責任者 柳 雅夫

### < 審査経過 >

専門知識を有する学識経験者3名、医療関係者2名、行政関係者2名からなる新小牧市民病院建設設計業務委託プロポーザル審査委員会を設置し、審議を行った結果、技術的に最適な者及び次点者を各1名選定した。

○審査日程は、次のとおりである。

区分	項目	日程
第一次 審査	実施要領等発表	平成26年4月25日(金)
	参加表明書等の交付	平成26年4月25日(金) から同年6月13日(金)
	質疑受付	平成26年5月1日(木) から同年5月23日(金)
	質疑回答 (小牧市民病院ホームページに掲載)	平成26年6月2日(月)
	参加表明書等の提出期限	平成26年6月13日(金)
	第一次審査(書類審査)	平成26年6月26日(木)
	結果発表(公表・通知)	平成26年7月8日(火)
第二次 審査	プレゼンテーション及びヒアリングのプロジェクター等の動作確認	平成26年7月14日(月)
	第二次審査(プレゼンテーション及びヒアリング)	平成26年8月4日(月)
	結果発表(公表・通知)	平成26年8月11日(月)

○評価基準は、次のとおりである。

評価項目	評価事項
1 設計事務所の能力	技術者数、主要業務実績数、代表的な主要業務実績の内容、同一敷地内の大規模な改築設計実績の有無
2 総括責任者の能力	資格・経験、主要業務実績数、同一敷地内の大規模な改築設計実績の有無、繁忙度
3 担当チームの能力	各分野主任技術者の資格・経験、業務実績数
4 業務の実施方針等	業務の理解度（業務、病院機能等の理解度）
	設計上の配慮事項の的確性（問題点、配慮すべき点の着眼内容）
	提案内容の的確性（基本方針の理解度）
	提案内容の実現性（敷地等制約に対する認識度、解決力）
	将来計画の実現性（将来の改修や建替も視野に入れた計画）
5 取組意欲	設計業務体制及びスケジュール管理体制

○新病院建設の基本方針は、以下のとおりである。

ア 永続的に高度医療を提供するに相応しい新病院を建設するため、患者・家族や病院職員の視点を十分考慮するとともに、病院運営の継続性、将来的な医療環境の変化への対応、地球環境への配慮、経営負担の軽減に配慮する。

イ 当院の医療機能を支える院内各部門の基本方針・業務機能を勘案し、全ての病院職員がそれぞれの専門性を最大限に発揮できる働きやすい環境を整えることで、医療の質的向上をもって地域医療に貢献する。

ウ ユニバーサルデザインの採用や分かりやすい施設配置により、様々な利用者に対応できる施設とする。また、セキュリティの向上、感染対策やプライバシーに配慮し、かつ安らぎの空間を創り出すことで、患者が安心して療養できる環境を整える。

エ 地域中核災害拠点病院として大規模災害発生時にも医療活動を継続できるよう敷地内の建物配置、建物構造及び設備計画に十分配慮

し、医療資材を備蓄するなどライフラインの確保に努める。

オ 医療制度の改革や医療技術の飛躍的な発展、医療機器の高度化・大型化などの医療環境の変化に対応できる計画とする。

カ 自然エネルギーや井水などの有効活用により、省エネルギーによる地球環境の保全と病院運営上のエネルギーコストの圧縮を図る。

キ 持続的な病院経営を実現するため、必要な建物・設備の機能を十分に確保しつつ、過剰投資を防止する。また、修繕費などの維持管理費用を含めたトータルコストの適正化を図る。

#### < 第一次審査 > (平成26年6月26日)

平成26年4月25日に、プロポーザルに関する公告を行い、平成26年6月13日までに参加表明書等の提出があった6者について、評価基準に基づく審査を行い、第二次審査への出席を要請する4者を選定した。

#### ○第二次審査 (プレゼンテーション及びヒアリング) 出席要請者 (五十音順)

提出者名	代表者氏名	総括責任者氏名
株式会社 梓設計 名古屋事務所	中村浩一	村本一彦
株式会社 石本建築事務所 名古屋支所	植野 收	渡延 公
株式会社 久米設計 名古屋支社	鈴木一光	柳 雅夫
株式会社 山下設計 中部支社	海老原悟	藤田 衛

#### < 第二次審査 > (平成26年8月4日)

第一次審査時に抽選により決定した順番で、提出者の各担当者によるプレゼンテーション及び各審査委員によるヒアリングを行った。その内容に対する評価と、設計事務所の能力等に対する客観的評価を合わせた結果を踏まえて審議を行い、技術的に最適な者及び次点者各1者を選定した。

#### ○総評

本プロポーザルは、施設設備の老朽化・狭隘化による医療機能の制約と療養環境の低下が問題となっている病院を現地で建替えるにあたり、技術的に最適な者を特定する目的で、公募形式で実施した。

既存の北棟及び緩和ケア病棟を残置、敷地内水路の制限、航空法による高さ制限などの条件のもと、各者とも吟味された提案がなされたが、病院機能

等の業務の理解度、設計上の配慮事項の的確性、新病院建設の基本方針に対する提案内容の的確性、提案内容の実現性、将来計画の実現性、取組意欲及び設計事務所の能力、総括責任者の能力、担当チームの能力等を総合的に評価した結果以下のとおり選定するに至った。

プレゼンテーション発表順	設計事務所	代表者	総括責任者	選定結果
1	(株)石本建築事務所 名古屋支所	植野 収	渡延 公	
2	(株)久米設計 名古屋支社	鈴木一光	柳 雅夫	次点者
3	(株)梓設計 名古屋事務所	中村浩一	村本一彦	技術的に 最適な者
4	(株)山下設計 中部支社	海老原悟	藤田 衛	